和名　ツミ

学名　*Accipiter gularis*

市街地の
ツミの繁殖行動

緒方　晴

世田谷区立 下北沢小学校　6年

観察しはじめた理由

野鳥観察を始めたばかりの頃にツミを見て
「近所の公園にもこんな猛禽類がいるのか」
と興味を持ったから。

今回の目的

ツミの繁殖を観察する

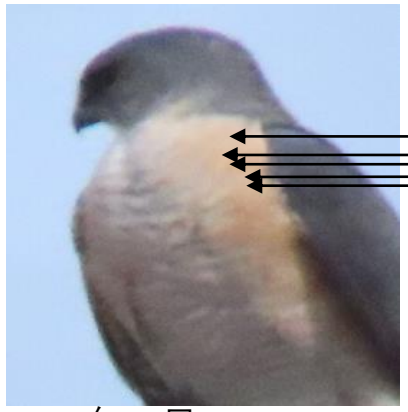
観察した期間　2021年～2023年

観察範囲　自宅周辺

個体識別

ツミのオスの個体識別

首から次列風切羽根の折り返している部分までの線の数が5本であるところで識別しました。別の公園で撮った個体は線が6本入っていました。（左の写真はスコープで撮ったので色がはっきり出ていません）



線が5本

2022年7月

2021年6月

ツミのメスの個体識別

肘に当たる部分の白い模様が同じだったので同じ個体だと判別しました。

別個体の例

線が6本

2022年8月

繁殖場所の変化

2021年　**公園の雑木林**で繁殖**失敗**　カラスが頻繁にモビングをかけていた

↓

マンションの松の木で繁殖**成功**

↓　カラスのモビングで繁殖場所をかえる

2022年　**区の施設の松の木**で繁殖**成功**

2023年　**同じ施設の松の木**で繁殖**失敗**

どこに行ったか分からなくなる

ツミ　♂成鳥

ツミ　♀成鳥

雛　巣立ち前

巣立ち雛

ツミとオオタカの比較

2021年の繁殖の記録

＊オオタカは近くの公園で繁殖しているつがいを挙げました。

時期	ツミ	オオタカ
2021　4月		交尾
5月	公園で繁殖失敗	抱卵
6月	マンションの松の木に移動(上旬)	雛（中旬）
7月	雛（上旬）	
8月	巣立ち（中旬）	巣立ち（上旬）

ツミは繁殖しなおしましたが、8月には巣立っています。
9月に公園で若鳥を観察しています。

	ツミ	オオタカ
営巣に使う木	アカマツ カラマツ	ヒマラヤスギ
主な巣材	近くの木の枝 サクラ、カラマツなど	ヒマラヤスギ カラスの巣を利用したためハンガーなど
卵の数	２～３個	３個ほど

区の施設のネットに止まるツミ

近所の公園のオオタカ

ツミはオオタカに比べ、雛の成長が早い。
カラスの攻撃を受けても、一夏に2回子育てをやり直す様子を観察した。

カラスとの関係

カラスはツミの営巣の最大の敵です。
マンションの松の木で営巣していた時は**20羽以上の群れでモビング**をかけてきました。公園でもカラスはたくさん群れでいるので、公園から営巣地を変えた理由もそれかもしれません。しかしその数日後、近くでツミの幼鳥を見つけたので繁殖は成功したようです。
カラスの他に、**ドバト**や**ワカケホンセイインコ**などがモビングを掛けるのをみたりしました。
しかし、カラスも、自分の雛が食べられるかもしれないのでお互い様のようです。

新たなツミの繁殖場所を探す

ある日、自宅に近い神社でムクドリと思われる羽根がちらばっているのを見つけました。そこらに巣があると思いましたが、見つかりませんでした。どうやらツミは近くを狩場にしているようですが、繁殖は別の場所のようです。ツミの繁殖場所を見つけるために今まで営巣してきた場所を地図で確認しました。

失敗したときに巣を変える距離がどれも500m程と分かりました。

現在の繁殖場所

前に営巣していた区の施設から、ちょうど500m程の林でツミの幼鳥を発見。親の二羽が並んで飛行しているのも見つけました。すぐに雛は巣立ちました。

そこから考えた新しい巣の見つけ方

- ある程度人通りがある
- 前の巣から500mほどの場所
- 見張りがしやすい
- 近くに狩場や水辺がある

まとめ

３年の間に、カラスが頻繁にモビングをかけていた場所で子育てに失敗し巣を移動したり、雛が巣から落ちてしまい巣を移動する様子を観察しました。その巣の移動を地図上で確認すると、**毎回元の巣の位置から５００ｍほどの場所へ移動しており、縄張りの地域は変えていないことがわかりました。**

今後

今年は、ツミの子育てを完全に観察することはできませんでした。
しかしツミがどのように巣を選んでいるか、来年どこで営巣するか予想できたので、来年はツミの子育てについてしっかり観察していきたいと思います。

Appendix

ツミ

全長27cmから30cmほどの小さなタカです。
主食は小鳥やムクドリ、蝉などの昆虫、ハトなどの雛も襲うことがあるそうです。
オスは頭部•翼が青灰色で、腹部はオレンジ色で縞模様は目立ちません。
メスは頭部•翼が灰色で、縞模様が目立ちます。

オスのツミ

メスのツミ

L